

輝け 田底っ子

第 13 号

文責：校長 益永 一幸

令和4年度 田底小 チャレンジ目標

- ①最後までがんばろう
- ②上手に伝え合おう
- ③自他を大切にしよう



田底校区「防災フェア」・「引き渡し訓練」の開催

～家庭・地域・学校の協働の防災・減災のコミュニティをつくろう～

6月4日（土）は田底校区防災連絡会主催の「防災フェア」が開催されました。「自分の命は自分で守る」という自助・防災学習の一環として、家庭や地域の方と一緒に学ぶことでより学習効果があると考え、学校も参加させていただくことにしています。また、非常災害時の安全な保護者引き渡しも危機管理上大切なことであり、その訓練も同時に実施しました。保護者の方にはお忙しい中、多く参加していただきありがとうございました。とても実り多い半日でした。

防災フェアでは、「防災講話」「給水体験」「水圧ドア開閉体験」「VR 消火体験」「救命救急法体験」「防災頭巾作成体験」「防災資料展示」「消防車・救急車の展示」など、見て・体験できる防災学習ができました。保護者引き渡し訓練では、安全で確実な引き渡しをねらいに行いましたが、保護者の皆様には一列に並んでいただきましたので、その目的が達成できました。

とても暑い日でしたが最後までありがとうございました。

北区役所から家庭1冊配布があります。



ドアは水圧でなかなか開きません。



安全に消火できたかな。



とても上手です。でもとてもきついです。



確実な引き渡しができました。

6月6日（月）熊日朝刊に防災フェアの様子が掲載されました。

熊本市北区植木町の田底小学校区の住民らでつくる防災連絡会（伊牟田和裕会長）が4日、同校で防災教室を

救命活動体験で学ぶ 北区・田底小 防災教室

開き、親子連れら約200人が消火や救命活動などを体験して緊急時の対応を学んだ。



心臓マッサージの方法を学ぶ親子ら＝熊本市北区

同会が地域交流の機会をつくらうと2018年から実施。新型コロナウイルスの影響で3年ぶりに開き、同校1、6年の児童と保護者らが参加した。

この日は、日赤県支部や市消防局、市上下水道局など7団体がブースを設置。国土交通省菊池川河川事務所（山鹿市）は40センチ浸水したドアが水圧で閉閉しづらいことを体験させ、「上の階に避難して、外に逃げる時は長靴ではなく運動靴で」と呼びかけた。心臓マッサージや仮想現実（VR）技術を使った消火活動の体験もあった。

ドアの開閉を体験した2年の菊川颯君は「ドアがすごく重かった。こうなったら怖いと思った」。同連絡会の前田正男事務局長（72）は「体験型だと子どもも理解しやすい。地域全体で防災意識を高めたい」と話した。（深川杏樹）



先週の校長講話で、「自分に自信を持とう」「自分と周りの人を大切にしよう」という話をしました。

その後、各学級で3～4人組をつかって、一人一人の「いいところ」を伝え合う活動をしました。ここでは、友だちのいいところをたくさん伝え合っていました。この活動を終えた後の子どもたちは笑顔でした。自分に自信をもって自分を大切に思い、そして周りの人も大切にできる田底小を目指しています。

【活動後の2年生の感想】

- みんなでいいところを言うと、楽しいし、友だちが笑顔になれるからいいと思った。
- みんなが笑顔になれるから、もっとこういう活動をしたいと思った。
- 心があたたかくなって、みんなともっと仲良くなれた。
- 自分では気づけなかったけど、自分にもいいところがあるんだなって気づいた。自分に自信が持てた。